

平成29年度 第2回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

1 開催日時

平成29年9月6日(水) 13時30分～15時30分

2 開催場所

名古屋事務所 展示室

3 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) 情報交換等
- (3) その他

4 検討結果

価格解析結果では一部の販売ブロックにおいて木材価格が「定常範囲を逸脱する動き」を確認したものの、各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する「必要性はない」と判断する。

5 委員意見等

- ・ 木曽ブロックでは、端境期であった4月、5月は値を上げたが、現在は供給が多く値を下げている状態。供給調整の必要はない。
- ・ 今年は長雨等で出荷量は少なかったが、今後は出てくる見通しなので供給調整の必要はない。
- ・ スギ、ヒノキ、カラマツの中で一番恵まれているのはカラマツ。長野、北海道、東北しか産地がなく、強度もある。土台で米ヒバの代わりにヒノキが使われているが、ヒノキについてはもっと見直され価格が上がるべきだ。
- ・ 国産材を使いたい設計士は増えたが、建築士や工務店のなかには、まだ外材の方が安くて大量にあると思っているところもある。そうしたところにどこで優良な国産の製品が手に入るかPRすることも必要。
- ・ 立木の価格が20,000円ぐらいにならないと採算がとれないだろう。現状では林業家の意欲も湧かないのではないかな。
- ・ 製材工場も商品開発により、新しい需要を創造するのも大事。
- ・ 農山村を活かすためにも、もっとA材に付加価値をつけて挽いている地域の中小製材工場に対する手厚い支援が必要。外国と戦うのではなく、日本は独自のやり方を考えなければいけない。
- ・ 強度等だけにとられるのではなく、木の良さは五感で感じれるところ。エンドユーザーに国産材を使うといかに環境によいか等の啓発活動がもっと必要。エンドユーザーに幅広く補助をするような施策も必要だ。そうすればも価格が少し高くても国産材を使うようになるはず。